

東っ子だより

由布市立東庄内小学校

令和7年11月13日11月号

(文責：校長 甲斐 浩司)

いのちの授業

10月31日、おおいた動物愛護センターより、講師3名とダンボ君に来ていただきました。低学年は「動物とのつながりを考えよう」、中学年は「犬を飼うことについて考えよう」、高学年は「人と動物(犬)のつながりについて考えよう」のめあてのもと、学年に応じた内容での学びを行いました。身の回りにいる動物たちが、「私たちの生活とどのように繋がっているか」や「命の大切さと私たちの責任」などについて考えました。動物たちの命をいただいていること、動物たちから健康や安らぎ、楽しさを与えてもらっていること、動物は生涯責任をもって飼育することなど確認ができました。「いのちの大切さ」を学ぶことができた時間となりました。

本との出会い



灯火親しむ秋となり、子ども達も足繫く図書室へ通う姿が見られます。11月4日「こすもすの会」の皆さんが1,2年生に「読み聞かせ」をしてくださいました。「どんなはながさく？」から始まり「つきよのくじら」まで全6冊、間に手遊び歌などをはさみながら、あっという間の1時間でした。クイズ形式の本には「堇、土筆」などと植物の名前を言ったり、登場人物が怒られる場面では「誰に怒られるん？」など、反応したりしながら聴いていました。また大きな絵本や折りたたまれたページのある絵本などには、興味津々の様子でした。「面白かった。」「楽しかった。」などの感想も聞かれ、読書への関心が一層高まったようでした。「こすもすの会」の皆様、大変ありがとうございました。



夢の実現に向けて



11月4日、3年生から6年生の「ヴェルスパ大分夢授業、サッカー教室」が行われました。「夢授業」では「サッカー選手になれる確率は0.02%」という少なさに驚きの声が上がりました。また、夢をかなえるために必要なことも教えていただき、お話以降、に取り組んでほしいと思いました。サッカー教室ではピブス取りやボールをコーンに当てるチームでのゲーム、ボールが3,4個入ったサッカーなどに取り組み、多くの歓声が上がっていました。《プロの世界》の一端に触れることができた、貴重な学びの場となりました。



勇気をもって前向きに物事